

平成27年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	自然にやさしい 福田田んぼ活動
団体名	福原ファームクラブ
市担当課名	産業観光部 農政課
事業の目的	日本人の「食」を支える「田んぼ」に次世代を担う子どもたちやより多くの市民が関わる事で、生物多様性を育む自然を継続させると共に、一般消費者に対して「田んぼ」の重要性をアピールする。
事業の実施内容	福田地区において、9月から10月にかけて「田んぼ」の実情を観察し、米の収穫作業を体験する。田んぼの周りの環境を観察して米の収穫だけではない「田んぼ」の役割を理解し、次世代に残せる農業を考える。 ○9月13日 オリエンテーション 参加者10名 ○9月27日 レンゲの種まき 参加者38名 ○10月4日 稲刈り 参加者60名
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・米の収穫作業だけでなく、田んぼを観察することで田んぼの果たす役割を認識させる。 ・農業に対する理解を深め、地産地消を消費者に促す。 川越市の役割 ・広報紙の掲載（イベント情報での掲載ではなく、協働事業であることが一般の人に分かり参加者が増えるような掲載）
事業の成果	川越市の広報紙掲載記事を見ての参加者は2家族でしたが、それは口コミによる参加者が9月スタートを待てずに6月7日の「田植え」から参加したためです。前回の指摘にもありましたが、農作業は通年の活動なので、稲刈りのみの活動では魅力に欠けてしまうのかもしれませんが。参加家族は合計18家族（前年度参加7家族、口コミ参加9家族、協働提案参加2家族）でした。農作業は天候に左右されるため、今回は稲刈りとレンゲの種まきの日程変更をしました。このことで来年のレンゲの時期が楽しみになると思います。 子どもが大きくなると、毎土曜・日曜日の習い事が増えて、このような親子一緒に体験型活動には参加が難しくなりますが、一般消費者の子ども達の原体験として必要な事と確認出来ました。 （参考用：アンケート添付）
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	協働提案事業として計画する上では、「稲刈り」が中心の計画となります。決定時期との関係からすると、募集時期は今年同様になる為、事前の準備として、「田んぼの観察」プラス「用水路の魚類の観察」を「他団体」と協力して報告出来るようにしておく必要がある。（田んぼ内の観察会は魅力ある活動なので、事前の講師費用等を事業の一環で認めていただけると有り難い。）
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	農業者と協力する組織の立ち上げを計り、継続できる限りは続けて行く。若い世代を育てる長期の計画が必要。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成27年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	プレママつながり事業
団体名	NPO法人川越子育てネットワーク
市担当課名	健康づくり支援課
事業の目的	本事業は2年目。昨年度の実績から、妊娠中は夫婦ともに「産む」ことへの関心は高いが、産後や子育てのイメージが乏しいことが分かった。妊娠期から夫婦で産後や子育てのイメージが描け、地域で交流の機会を得られることは、安心して出産・子育てができることにつながる。本年度も官民一体となり、産前から産後の切れ目のない支援を実施することにより、妊娠期から地域でつながりを作り、安心して出産、子育てができるようにすることが目的である。また昨年度参加したご夫婦を先輩パママで本事業に巻き込み、よい循環を作る。
事業の実施内容	<p>1) プレママ（妊婦）とプレパパ（パートナー）を対象に講座を企画・運営（年4回実施）</p> <p>○マタニティ・ヨガwithパパ+先輩ママパパ赤ちゃんとの交流会（年2回実施） ママがヨガをしている間、別室にてパパ同士の座談会方式の交流会を実施</p> <p>○安産と母乳のはなし+交流会（年2回実施） 産前の過ごし方、産後の身体の変化、赤ちゃんとの生活や母乳育児のコツなどの講話と交流会を実施</p> <p>2) 情報発信 広報・チラシ、団体HPを活用しプレママパパに情報を届けた。 また、保健センターで開催するプレパパママスクールにて担当スタッフが告知を実施した。</p> <p>3) 産院への告知協力のよびかけ 産院へチラシ掲示協力を依頼した。</p> <p>4) プレママパパのニーズ調査 アンケートやヒアリング等を実施しニーズ調査を実施した。</p> <p>5) 産前産後の切れ目のない支援へつなげる 産前から地域へつながっているという安心感を得られ、産後の支援へとつなげられた。 昨年度参加者の先輩ママパパとお子さんを招き、経験談を聞く機会を作り、子育てのイメージ作りに効果があった。 子育て情報誌「こえどちゃん」やネットワーク通信を活用し子育て支援施設を紹介した。</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <p>①企画の立案と運営</p> <p>②産前から産後への切れ目のない情報発信</p> <p>川越市の役割</p> <p>①事業の信頼性の担保</p> <p>②広報、産院、プレパパママスクール、母子手帳配布時の情報告知への協力</p>
事業の成果	<p>本事業の成果は以下の5つが挙げられる。</p> <p>①プレママ・プレパパの地域へのつながり作り</p> <p>②産前産後の切れ目のない支援の実践</p> <p>③官民連携による出産・子育てを応援するという風土づくり</p> <p>④夫婦で安心して出産・子育てを迎えるためのイメージ作り</p> <p>⑤昨年度参加者を先輩パママとして巻き込む循環作り</p> <p>協働事業により、事業の信頼度の向上や広く告知ができ、今年度から参加費を1回1組500円としたが、参加者数は、のべ30組（54名）であった。内容については、昨年度と同様だが、昨年度参加者のご夫婦と赤ちゃんを招き、体験談を聞く機会を設けた。4回開催した全てのアンケート結果で「非常に良かった」「良かった」の感想だった。特にプレパパと先輩パパとの交流はとても話が盛り上がり、出産と子育てを具体的にイメージできたようだった。お子さんを抱っこさせてもらう経験もできた。「出産に対する不安が解消した」「このような機会はなかなかないので貴重だ」などの感想が多く、プレママ、プレパパ共に満足度が高いという嬉しい結果となった。産前からの地域へのつながりづくりは産後の孤立や虐待等の予防にもなると考えられる。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	参加者の満足度が高い事業のため、これから川越市で出産・子育てをする若い世代に、もっと参加してもらうためには、告知の工夫が課題だと思われる。認知度が高いプレパパママスクールと申込み時に組み合わせにするなどして対応できないか検討したい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	産前から産後の切れ目のない支援を実現する「妊娠・出産包括支援事業」は全国に広まっている。プレママパパを対象とするこの事業の必要性は高く、当団体としては今後も継続していくためには助成金等で資金面の確保をしていきたい。出来ることなら市の事業として継続を検討していただきたい。

平成27年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越百景絵画展児童・生徒の部第2回展
団体名	川越百景絵画展実行委員会
市担当課名	文化スポーツ部 美術館
事業の目的	川越の未来を担う子供たちに、郷土の風景や伝統行事に関心を持たせるため。
事業の実施内容	<p>○市政施行90周年記念事業として選定された、川越百景をモチーフにした平面作品を、市内在住、在学の児童・生徒対象に公募 【公募期間平成27年7月～11月30日】</p> <p>○主催者が「緑陰写生会」を7月25日(月)に市内5か所で同時開催</p> <p>1. お伊勢塚公園 参加者 9人 (児童 6人、保護者3人) 2. 水上公園 参加者 7人 (児童 4人、保護者3人) 3. 仙波河岸史跡公園 参加者22人 (児童13人、保護者9人) 4. 伊佐沼冒険の森 参加者23人 (児童10人、保護者13人) 5. 福原の雑木林 参加者54人 (児童30人、保護者24人) 合計参加者数115人 (児童63人、保護者52人)</p> <p>○審査会での審査した入選・入賞(市長賞など)の作品200点公開展示 (出品数:小学校748点、中学校223点 合計971点) 【会期平成28年2月7日(日)～14日(日)】</p> <p>○入選・入賞作品集1000部を刊行【平成28年2月】 (配布先:入選・入賞児童200部、学校3部×55校=165部、協賛企業、行政機関等)</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割 企画、運営、人材派遣、資金調達、事務局</p> <p>川越市の役割 会場提供、作品の受付・保管、インフォメーション、広報活動</p>
事業の成果	<p>今年度の出品数は971点にのぼり、311点であった昨年度と比較すると約3倍に増加した。出品数が増えた理由として①主催者自ら「緑陰写生会」を実施したこと。②ポスター、チラシなどによる情報発信と美術館が各校図工主任に直接電話で協力依頼したこと。③入選入賞作品集の入選者全員への配布④出品者全員に参加賞品を出したことなどが考えられる。</p> <p>会期は1週間であったが、入場者数は1054名をカウントした。観覧者には家族連れが多く、子供たちの作品を見つけ喜び、記念写真を撮る姿が散見された。</p> <p>描かれた題材【モチーフ】は、時の鐘、川越祭りが最も多く、喜多院(五百羅漢像)、埼玉りそな銀行の建物、身近な風景の順であった。</p> <p>アンケートの自由記述には、「次回も参加したい」、「川越の良さを再発見した」、「自慢にしたい」、「子供たちの発想の豊かさに驚いた」、「素直に描くことの素晴らしさを学んだ」などがあり、当初の目的が達成されつつあることを感じた。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>美術協会のメンバーによる事務局の負担が多く、市職員にお願いしたいと感じた。推進にはプロジェクトチームを編成したことが効果的であった。</p> <p>資金調達には企業団体の理解を得ることが必要なため、事業推進にあたり市及び市教育委員会の後援名義は、信頼を得るために欠かせない。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	自己資金には限界があるので、経費節約に美術協会員のボランティア・スタッフを公募した。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成27年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	高齢者生き生き事業＝空き家を活用した高齢者生活支援・介護予防・社会参加事業＝
団体名	柿木の家
市担当課名	福祉部 高齢者いきがい課
事業の目的	空家を活用して、高齢者の居場所、学習会、遊びのコーナー、食事会などを実施する公民館的的事业を実施し、住み慣れた地域で生き生きと暮らし続けられるコミュニティ作りを目指す。
事業の実施内容	<p>1. 学びの学習教室（学習・体操などを行う団体の活動の場）は、</p> <p>①折紙クラブ2団体が16回、76人。 ②健康体操クラブが2団体15回、88人。 ③詩吟の会1団体、2回、14人。 合計5団体33回、178人であった。</p> <p>2. 元気老人のたまり場（高齢者の居場所、サロン）事業としては、</p> <p>①水泳クラブ茶話会3回、19人。 ②微笑み会2回、11人。 ③ピンピンコロリの会2回、21人。 ④たすけあいの会ミニサロン1回、19人。 合計4団体が8回実施、63人であった。</p> <p>3. 手造り食事会事業（昼飯を作って食べる会）は本会主催の事業で、10月から6回、60人であった。 以上合計3事業で、10団体。47回、302人参加（3月23日現在）であった。</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割 事業の実施。自治会等関係団体との協力依頼。</p> <p>川越市の役割 高齢者支援、空き家対策などの環境改善事業にかかる情報提供や指導、財政的支援。</p>
事業の成果	<p>1. 総評 空家の土台修繕や外壁清掃、園庭（庭木）整備等に時間を要したこと、及び、空家の使い勝手の悪さ等もあって、当初計画を縮小して実施した。また、対象者が80歳代の後期高齢者を中心としているため、事業趣旨に賛同しても実践参加は極めて厳しいものがあった。これらの要因で、事業成果は初年度の達成目標の2割程度で終わった。（数量的内容は上記「事業の実施内容」欄のとおりです。）</p> <p>2. 各事業別検討</p> <p>①学びの学習教室は、折紙2、健康体操2、詩吟1の5団体が月例会を開始したが、折紙の2団体は、指導者の骨折で休会と、使い勝手が悪いと終了（新たに町内に民間クリニックが会議室を地域開放したのでそこに移転）し、年度末には2団体共活動実績ゼロになった。</p> <p>②元気老人のたまり場は、空家の鍵当番を行う者を組織するに至らず、このため、常時「たまり場」開設に至らずに終わる。</p> <p>③手作り昼飯会～本会が調理師のプロを得て、10月から月1回でスタート。好評で、応募者が多いため2月から月2回とし、毎月の2回目は、町内の「霞が関中央クリニック」を会場として毎回20名規模で実施するに至った。</p> <p>④リユース事業（不用品展示販売など）は、空家が常時オープン出来ないこと、鍵管理の問題も有り、開始するに至っていない。以上、総じては、この事業は3年計画で軌道に乗せる予定であるので、初年度としてはまずまずと考えている。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	28年度からは、家主交渉で家賃を1日1,000円×空家使用実績日数とする方向が出たので、財政的課題は大きく改善する。スタッフ及び利用対象者は、後期高齢者の主体的参加が目的であるため、無理のないシフトで、教宣に一層努め、参加しやすい内容（マージャン、囲碁将棋など）を探る。空家の整備（戸戸や家具の荒廃化）は継続して必要と分かったので、公私の財政支援を得たいと考えている。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	今年度の実績から、会場利用者の参加費（1人1回100円×参加者数）＝（イコール）＝空家家賃等必要経費となる規模とノウハウで、将来的にもニーズがある限り継続することはできると考えている。（「かすみ野たすけあいの会」の実践から、継続する中に道が開いていくと実感している。）

平成27年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	生活困難家庭の児童生徒へ対する学習支援事業
団体名	チームひだまり
市担当課名	福祉部 生活福祉課
事業の目的	<p>経済的困難のため高額な学習塾に通えない家庭の児童生徒へ対し、学習支援を行う。学習支援は、基礎学力を身に付けさせることで自信を回復させるとともに、支援し理解する者がいることにより自己肯定感を高めさせることを最終目的としている。</p>
事業の実施内容	<p>川鶴地区において、2015年10月～2016年3月にかけて、「ひだまり塾 後期クラス」を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実施場所：「コミュニティカフェ ひだまり」（川越市川鶴2-11-1） 2. 実施期間：2015年10月3日～2016年3月12日の毎週土曜日（計23回） 3. 実施時間等（分類、実施時間、担当講師について） <ul style="list-style-type: none"> ・小学生の部…10：00～11：30講師…教員OB 3人（うち外部講師2人） ・中学生の部…19：00～21：00講師…大学生 外部講師のみ5～6人 ・高校生の部…19：00～21：00講師…大学生 4. 実施方法：講師1人に対し生徒1人～3人の、徹底した個別指導態勢 5. 生徒人数：小学生…4～7人、中学生5～8人、高校生0人 6. 講師打合せ：毎回、塾終了後に講師の話合いを設け、生徒の学習理解や家庭の様子等を相互に把握。次回の課題等について打ち合わせた。 7. 受講料：入塾希望者の保護者と面談し受講料を決定。生活保護・母子家庭が増え、無料・低額者が増え受講料収入は予定を下回った。 8. その他：教材は学校使用のものを中心とし、学習習慣をつけさせ基礎学力を養わせた。そのうえで理解を深める参考書や問題集を与えて習熟させた。また高価な辞書・参考書・問題集等を塾で用意し貸し出した。 <p><実施時期と内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年7月 「ひだまり塾 後期クラス」チラシとポスターを作成。 ・ 8月～9月 生徒及び学生講師を募集。」（その後も随時募集） ・ 10月 「ひだまり塾 後期クラス」開塾 <ul style="list-style-type: none"> 3日・10日・17日・24日・31日実施 ・ 11月 7日・14日・21日・28日実施 ・ 12月 5日・12日・19日・26日実施 ・2016年1月 9日・16日・23日・30日実施 ・ 2月 6日・13日・20日・27日実施 ・ 3月 5日・12日
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割・・・事業の周知。場所と講師を用意し'ひだまり塾'を実施する。</p>
	<p>川越市の役割・・・市の関係課への連絡調整。広報。市の施策等の情報提供。</p>

事業の成果	<p>①実施状況について（生徒・講師参加状況等詳細は添付資料を参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生の部 20回開催 述べ76人出席 ・中学生の部 23回開催 述べ93人出席 <p>②児童・生徒の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祖母と二人暮らしでADHDの児童は、基礎学力が確実にについて、「できない自分」を誤魔化す必要がなくなり、それにつれて言動・行動が落ち着き、学習意欲も出る良い循環に入ってきた。 ・母子家庭かつ障害のある兄弟を持つ児童は、「ここでは甘えられるから嬉しい」と、通ってくる。 ・不登校気味だった生徒は基礎学力が付くとともに学校を休まなくなり、成績も向上安定してきた。 ・生活保護母子家庭の姉妹は、自力で学習し好成績を挙げてきたが、大学生の指導を受けて理解が深まり、一層、学力が向上している。 ・母子家庭で「算数で0点を取った」小学3年生の母親から問い合わせあり。低額で受け入れ、早く学習のつまずきに手当てができた。 ・高校生はまだいないが、川越市HPを見ての問い合わせがあった。 <p>③周囲の変化・・・一般会員から予想以上の関心が寄せられ、生活困難家庭の子供への学習支援に対し、共感して支援してくれる人が増えた。</p> <p>④関係機関・・・学習支援事業について発表・講演を依頼され、川越市社会福祉協議会、川越市、埼玉県、埼玉県社会福祉協議会と、これまで以上に強いつながりができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年8月2日…埼玉県西部「孤立防止フォーラム」で「ひだまり塾」の取り組みについて発表。 ・2015年12月14日…埼玉県社会福祉協議会 共生・共助つながりづくりシンポジウムで発表。 ・2016年1月25日…さわやか福祉財団の 視察受け入れ ・2016年3月24日…”NPO法人この指とまれ”学習会 で講演「ひだまりカフェで学習支援」
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の需要が増えている。学習の躓きを早い段階で解消するために小学生クラスを充実させてきた。しかし途中で外部講師（教員OB）一人が病気入院となり人手が不足している。新年度に向けて地域に声掛けを行い、2人は確保したい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>民間財団助成金等を取得しながら、この「生活困難家庭の青少年への学習支援」は、継続する。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成27年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	武蔵野里山イニシアティブ「里山讃歌音楽祭」KAWAGOE2015
団体名	尚美学園大学
市担当課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
事業の目的	・Farm（農）、Food（食）、Festa（祭）の3F運動の推進を通じて、小江戸川越地域ブランドづくりと地域活性化に貢献すると共に、市民に開かれ地域に根ざした音楽祭としての定着を図る。また、本音楽祭への参加を通して、川越や里山への関心や愛着を育み、地域に貢献したいと考える次世代の担い手達を育成していく。
事業の実施内容	音楽祭開催日時：平成27年12月23日（水・祝）14:00～16:30 会場：ウエスタ川越大ホール 第1部：高校生による吹奏楽演奏 出演：埼玉県立川越総合高等学校・川越市立川越高等学校 第2部：オーケストラと合唱の饗宴 演奏：尚美学園大学管弦楽団／合唱：里山讃歌音楽祭合唱団 他 （＊詳細は別添のチラシ・記念誌を参照のこと）
事業実施時における市との役割分担	【市民活動団体等の役割】 ・音楽祭の企画・運営 ・オーケストラ・市民合唱団の組織化・指導・練習 ・チラシ・ポスター・チケット・記念誌の制作・発行 【川越市の役割】 ・音楽祭の開催告知・広報活動 ・川越市役所内の連絡調整
事業の成果	・当日の来場者数は、目視で約750名（出演高校生の鑑賞も含めると約800名）、モギリ数654枚と、チケット販売数222枚と、いずれも本音楽祭としては史上最多の来場者数を記録した。来場者の内訳は、チケット購入による一般来場客約3割、出演校関係者（保護者を含む）や招待者が約7割となっている。 ・実施アンケートでは、69名（来場者の約1割）から回答協力が見られ、「大変よかった74%」＋「よかった19%」＝計93%、また、自由回答でも、「素晴らしかった」「感動した」等、多くの好評が寄せられた。（別紙アンケート集計結果参照）。 ・特に今年度は、第1部に高等学校の吹奏楽演奏の部を設け、主催校である川越総合高等学校に加えて、市立川越高等学校が初参加したため、出演生徒の保護者の来場等、より多くの川越市民及び近隣居住者の来場が図られた。また、大学生やプロと共に同じステージに立てたことへの出演高校生の喜びの声も多く聞かれ、本音楽祭が少しずつ地域に定着しつつあることを実感できた。 ・参加者数（出演及び運営）：高校生121名・大学生123名・大人約90名（指揮者・ソリスト・市民参加出演者・指導及び運営教職員）
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	・本来は、合唱団公募をもっとオープンな形で告知したかったが、今年度は体制づくりが不十分で（大学の教育の一環でもあり、練習日程調整が困難）、出演者や指導者の紹介等による呼集に留まってしまったため、今後、再度体制づくり等を検討していきたい。 ・また、主催団体サイドの広報・販促活動もまだまだ不十分で、チケット販売数が思うように伸びなかったため、来年度はもっと積極的な販売促進を行っていきたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	・大学予算、協賛団体の呼集、参加団体からの参加費徴収等によって継続的に実施できるよう図っていく。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成27年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	第11回復活！唐人揃いー朝鮮通信使ー多文化共生・国際交流パレード
団体名	川越唐人揃いパレード実行委員会
市担当課名	産業観光部 観光課
事業の目的	江戸時代に川越氷川祭礼で町人たちが行っていた朝鮮通信使の仮装行列「唐人揃い」を復活し、朝鮮通信使の善隣友好の精神を現代に生かすと共に、川越の文化遺産を紹介する。また在日外国人との交流を通じて多文化理解を深める。
事業の実施内容	日時 2015年11月15日(日) 12:00~15:30 場所 蓮馨寺及び連雀町~札の辻(一番街・大正浪漫夢通り) 内容 開会式 パレード(20団体 約400名参加) パフォーマンス(一番街の3ヶ所で) 閉会式
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 事業の企画・運営・会計・関係部署との連絡など 川越市の役割 広報(チラシ・ポスターの配布など)、通行止め機材の提供、川越小学校体育館の使用許可など
事業の成果	今年のパレードは11回目ということで、昨年市民会館を会場に「朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会」を開催したこともあってか、市民の「唐人揃い」パレードと朝鮮通信使への理解が進んだのではないかと考えます。 また、今年の日韓国交正常化50周年ということで、外務省認定の記念事業として行うことができました。そして、今年一番の成果は「子ども朝鮮通信使」を実現できたことです。さらに、市立川越高校の生徒会がボランティアとして参加してくれました。やはり次代を担う若い人たちが参加してくれることでイベントが活気づきました。その他、地元川越の団体が初参加し、楽しい充実した多文化共生と国際交流を実感させるパレードになりました。 現在、「朝鮮通信使を世界記憶遺産に登録しよう」と日韓共同で取り組んでいます。唐人揃いパレードもその活動の一端を担っていると自負しています。また、日韓・日朝の友好にささやかながら貢献できたと思います。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	今年は協働事業3年目でした。この3年間川越市のご協力でのイベントも定着し、全国的にも注目されるパレードになりました。来年以降は協働事業のイベントではありませんが、今後とも市のご支援をいただければと思っています。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	市民や企業・団体の協賛金でまかなえるパレードを継続する予定です。

平成27年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	マジックを通じた世代間交流、児童等のボランティア活動の推進事業
団体名	高階南マジッククラブ
市担当課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
事業の目的	知的好奇心の旺盛な子供達がマジックの不思議現象が現れる過程や手順を学ぶことを通じて、物事の成り立ちの理解、忍耐力や集中力、正しい判断力、思考力などを身に付け、結果として、人間性豊かな児童の健全育成に貢献するとともに地域文化の発展に貢献することを目指す。
事業の実施内容	<p>○高階地区を中心とした小・中学校、福祉施設に講師・スタッフを3～4名派遣する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校への派遣回数 6回（参加児童：延べ約80人） ・福祉施設への派遣回数 12回 <p>○夏休み中の学童保育でやさしいマジック教室を開催する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施回数 3回（参加児童：延べ約90人） <p>○高階南マジックフェスティバルの実施（開催日：平成27年9月27日（日） 来場者約160名 小学生によるアートバルーンの披露</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設・学校等への訪問（7月～3月） ・マジックフェスティバルの開催（9月27日） ・夏休み中の学童保育室でのやさしいマジック教室開催 <p>川越市の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報川越などによる事業周知 ・市の関係各課、学校への連絡調整
事業の成果	<p>夏休み中の学童保育でやさしいマジック教室を3回開催し、延べ90人の児童が参加した。</p> <p>また、社会福祉協議会ボランティアセンターを通じて地域の老人会、子供会、各種福祉施設でマジックショーを開催した。4つの班に分かれて輪番制で対応することで、多くの要望に応えることが出来た。</p> <p>マジックフェスティバルはボランティアを含め40名ほどのスタッフの協力により開催し、160名ほどの来場者があり盛況に実施できた。アンケートでは、「次回も来場したい」「子どもがとても楽しんでいました」といった感想が寄せられた。</p> <p>当初マジックフェスティバルにおいて、学校の課外授業でマジックを選択した13名の子供たちが来場者の前でマジックを披露する予定であったが、連絡の相違により実現しなかった。しかし最終的に7人の子供たちがバルーンアートをステージで披露することができた。</p> <p>なお、フェスティバル当日会場入り口に設置した募金箱により集まった募金は全額社会福祉協議会を通じて寄附をした。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	学校以外にも地域の子供会、PTA、町内会などに呼びかけ、身近なところで子供達がどんなボランティア活動（マジックを通じて）が出来るかを幅広く検討したい。また、学童保育だけでなく、公民館を初めとした様々な場所で実施が出来るように検討したい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	会の発足時の運営方針に基づき、会員の理解と協力による地道な活動を続ける。

平成27年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	村瀬守保写真展「平和をねがう一兵士が残したもの」
団体名	村瀬守保写真展実行委員会
市担当課名	総務部 総務課
事業の目的	川越市民であった村瀬守保氏が残した戦地（中国）での貴重な写真を、川越市民はじめ多くの若者たちに見てもらい、平和について改めて考える機会にしてもらうことを目的として実施した。
事業の実施内容	○日時：平成27年8月11日（火）～8月23日（日） ○会場：川越市立美術館 市民ギャラリー ○展示内容：写真44枚（拡大現像10枚、拡大コピー5枚を含む） ○来場者アンケートの実施 ○解説員の配置（小・中学生のグループには、実行委員会会員が写真の解説を行い、理解を深めていただいたうえで感想文の記入をお願いした）
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・写真展会場の整備、必要資料の提供と説明 ・写真についての説明、交流の場の提供など ・報道機関、教育機関等への情報提供
	川越市の役割 ・広報川越による市民への情報提供 ・事業実施にかかるアドバイス
事業の成果	写真は事実を知らせる最良の手段であることが改めて証明された展示会でした。特に中学生のグループが「夏休みの宿題」として来場し、真剣に写真を見て説明を聞く姿は必見に値する場面であると思います。また、戦争体験者同志で話し合いをしている姿や、若い方々が知識が現実のものとして目の前の写真の中にあることに驚いている姿もあり、事実を知ることの重大さを痛感したと思います。 行政と市民の協働事業の成果は大きく、それ故に新聞・テレビでも大きく取り上げ、さらに日本ペンクラブも後援したと思います。ぜひ今後も協働事業に参加したいと思います。 なお、2年目は写真展に寄せられた貴重なアンケートと感想文をきちんとした冊子にまとめ、来場者や教育機関等関係各方面に配布したいと思います。また、3年目は「平和と障害者の生き方」というテーマで事業の実施を考えています。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	各方面に呼びかけてカンパや支援金を募り自己資金の強化を図る

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成27年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	東日本被災地の人達に、励ましカードを届ける巡回展
団体名	自立の家「つどい」
市担当課名	学校教育課 学校管理課
事業の目的	震災から4年以上が経過し、災害の記憶や支援意識が年々風化しつつある一方で、被災地ではいまだに心のケアが必要な方々が大勢います。そこで、「川越オリジナル励ましカード・クリスマスカード」の作成を市内の小・中学生に呼びかけ、被災地の高齢者や子どもたちに応援メッセージを贈り届けることで、被災地の方々の心のケアに役立てるとともに児童・生徒のボランティア意識の向上や情操教育につなげることを目的とします。
事業の実施内容	○7月～10月 オリジナルカード等の作成 学校管理課を通じ、市内の小中学生に被災者応援メッセージ入りオリジナルカードを作成してもらおう。また、併せて葉や絵馬等の作品も学生問わず作成いただく。（作成カード数：約3000枚） ○11月14日（土）～11月18日（水）励ましカードを届ける巡回展の実施 ・場所：ウェスタ川越 ・内容：ワークショップ・情報コーナーで応援メッセージカードをパネル展示するとともに来場者にメッセージ作成を呼び掛ける。 11月15日（日）座談会「支援活動を続けて・・・今思う」を実施。 ・座談会参加者数：32人
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・小・中学生、高校生、一般の方が制作した作品の展示、及び被災地の人達への配布 ・座談会の実施 川越市の役割 ・会場の設営補助。被災地で勤務をした市職員のシンポジウムへの派遣 ・市広報掲載、公民館・市掲示板へのポスターの掲示許可 ・学校への呼びかけ
事業の成果	事業の目的に沿った東日本支援活動を行う中で以下の点を工夫して実施した。 ①観光客への事業参加の呼びかけ 菓子屋横丁の無料休憩所にて、被災地へのメッセージカード作成を観光客にも呼びかけることにより、一般の人に事業を周知するとともに、川越市のイメージアップにも寄与できました。 ②健康・福祉の向上に関する事業 特に、福祉の心を養うことを意図として、所管課である学校管理課の力強い支援によって、市内小中高の児童生徒が参画を促し、最終的に被災地に3000枚余りのカードを届けることができました。 ③広報事業 新聞やメディアに働きかけることにより、福島での復興支援イベントにおける川越の活動を広く周知することができました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	シンポジウムを行う際の会場設定、日程などを再考する必要がある。また、実際に被災地の人達と落ち着いて語れる場を設けたいと考えている。

補助金が終了した場合の当該事業の見通し	中央大学名誉教授の田中先生からも事業は継続することを伺っているので、補助金の有無にかかわらず実施していきたい。
---------------------	---

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成27年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	伝統「和楽器」演奏文化事業			
団体名	川越和楽器演奏クラブ「夕映え」			
市担当課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課			
事業の目的	小江戸川越の随所において、伝統和楽器の演奏を観光客及び地元市民に提供することで、情緒豊かな城下町川越のイメージアップを図るとともに、西洋音楽とは違う音色や奏法、呼吸法等を身近に感じていただくことで、伝統文化を若い世代へ継承し大衆化させることを目的とする。			
事業の実施内容	実施日	実施場所・時間・演奏者数・客数(流動的)	実施日	実施場所・時間・演奏者数・客数(流動的)
	8/2(日)	氷川神社18:30~19:30 5人 50人	10/11(日)	蓮馨寺14:00~17:00 3人 30人
	8/8(土)	三芳野神社15:00~18:00 5人 20人	10/17(土)	三芳野神社14:00~17:00 5人 20人
	8/15(土)	蓮馨寺(雨天中断有)14:00~16:00 5人 40人	10/28(水)	伊佐沼「夕映え」ミライ7 17:00~21:00 3人 20人
	9/12(土)	蓮馨寺 昭和の街感謝祭 1人 150人	11/14(土)	蓮馨寺14:00~16:00 2人 28人
	9/19(土)	蓮馨寺15:00~17:00 5人 30人	11/21(土)	三芳野神社(雨天中止) 13:00~15:00
	9/27(日)	三芳野神社15:00~17:00 4人 20人	12/12(土)	蓮馨寺13:00~15:00 4人 40人
	9/27(日)	伊佐沼公園中秋の名月演奏18:00~20:00 8人 16人	12/5(土)	池袋南小学校での授業 1人 183人
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割			
	2~5人位の演奏者で和楽器中心の野外演奏活動			
	川越市の役割 広報活動等、伝統和楽器文化の普及			
事業の成果	<p>小江戸川越の街並みとともに和楽器に親しんでいただくため、野外活動を中心に事業を実施したが、天候に左右される事が大きな課題であった。当然ながら好天気の日には人々の集まりもよく10分・15分・20分位とそれぞれの利用時間帯に合わせ、和楽器の生演奏に興味を示してくれました。各ジャンルとも馴染み易い曲を中心に構成することで、多くの方に伝統和楽器に親しんでいただくことができました。</p> <p>また、池袋南小学校の講堂で、尺八演奏と尺八の体験学習を実施したところ、大きな反響を得ることができました。今後は、川越市内の小学校で実施するという目標ができました。</p> <p>この活動は地道に継続することで成果を得ることが出来ます。この半年間で多くの課題と目標を得ることができましたので、引き続き事業を継続し行政や他団体等と連携して小江戸川越で伝統和楽器文化を普及させたいと思います。</p>			
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	野外活動の為、場所・時間・音響等々に制約があり効果的結果を得るには更なる根気強いリピート活動が必要で演奏『場』と協力者を探し求めたい。			
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	クラブ「夕映え」としては、和楽器の大衆化を目標としているので、補助金に関わらず、川越市に『和の音』を定着するまで継続していきたい。そのニーズと期待は演奏して強く感じている。			